

## 内視鏡スコープの清浄化に向けた取り組み

一般社団法人 宗像医師会病院 臨床工学科

○今永純司、川添久司、松尾卓也、佐々木篤、根岸光彦、市川浩二

### 【背景、目的】

2017 年度より内視鏡スコープ（以下スコープ）の一次洗浄での清浄度を評価する手段として、ATP+AMP 拭き取り検査（以下 ATP 検査）を導入した。ATP 値はスタッフの洗浄方法で大きく変動し、キッコーマン推奨の目標値（100RLU 以下）を度々上回った。また、洗浄手技においても各スタッフで多少のばらつきが見られた為、手技の標準化と ATP 値の減少を目的としてスコープの清浄化に取り組んだ。

### 【対象】

2017 年 4 月～2018 年 4 月までに、オリンパス社製上部スコープ 7 本、下部スコープ 4 本から各々 3 本ずつ無作為に抽出し ATP 検査を毎月 1 回実施した。洗浄器はジョンソン&ジョンソン社製エンドクレンズ NEO を使用し、洗浄業務には CE4 名がローテーションで介入した。

### 【方法】

各スタッフの洗浄方法が標準的手技で行われているかを確認する為に、消化器内視鏡技師会のガイドラインに沿った内容でチェックリストを作成し手技の確認を行った。必要に応じ、手技の改善や当院洗浄マニュアルの改訂を行った。ATP 検査はレンズ先端・鉗子孔・吸引孔・鉗子チャンネル・吸引チャンネルより検体を採取し、目標値は 2017 年 4 月～11 月までの ATP 値を基に上部スコープのレンズ先端・鉗子チャンネル・吸引チャンネルは 100RLU 以下に、鉗子孔・吸引孔は 200RLU 以下に、下部スコープは全採取部位にて 100RLU 以下に設定した。手技標準化後の ATP 値を経時的に観察し、スコープの清浄度が向上しているかを検証した。

### 【結果】

手技確認の結果、ベットのサイド洗浄時の洗浄手順で標準的手技と当院手技とで違いが見られた。手技標準化後 2 ヶ月間（2018 年 1 月現在）の ATP 値は上部スコープ、下部スコープ共に全ての採取部位において当院での目標値を下回った。

### 【考察】

手技を改善することで、スコープ細部までくまなく洗浄することが可能となった。その結果 ATP 値が減少し、スコープの清浄度が向上したと考える。しかし 2018 年 1 月現在で手技標準化後 2 ヶ月しか経っておらず、今後も ATP 値の経時的変化を観察していく必要がある。

### 【まとめ】

手技を標準化し、マニュアルを改訂することでどのスタッフが介入しても一定レベルの水準で洗浄を行うことができ、全ての採取部位において目標 ATP 値を下回ることが可能となった。今後は感染管理の観点からも、一定レベルの水準を保った洗浄ができるよう手技の継続に努めていきたい。